

# 夢窓幼稚園通信第15号

2020年 6月 16日

山里にある分校の校長になる夢を見ました。  
木造の古い校舎は味わいがあり、分校といっても  
子どもたちは30人はいいて、笑顔が素敵な優しく  
人なつこい子たちです。

庭ではヤギを飼っていて、子ヤギは歯がかゆいのか……  
寄ってきては指を噛むので痛い。「おいおい痛いよ、  
よしてくれよ!」と、かわいけれど両手の指をねらっ  
てくるのを抜いているのを見て、炊事場の給食のおばちゃんが  
ケラケラとおかしそうに笑っています。

いい匂いが流れてくるのに気がつきました。もうすぐお昼の  
時間のようです。

みんな家から持ってきたお弁当箱に、出来たてのお昼ご飯を  
詰めてもらって、思いおもい好きな所で食べていいことにな  
っています。

一人の男の子が「今日いっしょにお昼を食べよう!」と  
誘ってきました。「〜くんとも約束しているから、よければ  
みんなでお昼を食べようか! もう少しとたかね!」

食べる場所だけでなく、ある時間は自分が好きなことをして  
過ごすことになっています。

庭の大きな木の下は、緑に包まれたのどかな木陰で、低い  
柵で囲われたいいスペースで、今日は楽しそうに先生と音楽を  
楽しんでいます。「校長先生もギターを弾かれるそうですから  
今度はごいっしょにしましょうよ」と、こちらでもお誘いを  
受けました。

分校に住むカラスも人の言葉をいくらかしゃべり、ほの  
ぼのとしたところだな!と思いました。

夢はもう少し続くのですが……、「ファミリー」とつぶやきながら  
目が覚めました。

家族や仲間社会を社会学では「ゲマインシャフト(共同社会)」と呼び  
特定の目的や組織化された社会を「ゼゼルシャフト(利益社会)」と  
表現しますが、学校とはどちらなのでしょう。

ゲマインゲゼルシャフト(共同利益社会)として、夢窓幼稚園があつたら  
いいなと思っています。

園長 升光 泰雄